

3月3日 絆を未来へ—岩美高校同窓会入会式

本日の卒業証書授与式に先立ち、岩美高校同窓会入会式が執り行われました。式では、田中伸吾同窓会長が登壇し、「岩美高校は今年で創立77周年を迎え、これまでに9,308名の卒業生を送り出してきました。卒業生は日本のみならず諸外国でも様々な活躍をしています。これからの人生で困難に直面することもあるでしょう。しかし、共に学んだ仲間や恩師の存在を思い出し、支え合いながら乗り越えてほしい。そして、成人として積極的に社会に関心を持ち、未来を切り開く大人へと成長してください。」と、熱いエールを送りました。



3年1組



3年2組



3年3組

3月3日 令和6年度卒業証書授与式

本日、卒業証書授与式が行われ、67名の生徒が輝かしい未来へ羽ばたいていきました。卒業生たちは、保護者や教員、在校生の温かい拍手に包まれながら入場しました。開式の辞、国歌斉唱のあと、各クラスの代表に卒業証書の授与が行われました。

辻中校長は式辞で、卒業生たちの高校生活を振り返りながら、「皆さんが入学した頃は、新型コロナウイルスの影響でマスクの着用が義務付けられ、楽しいはずの学校生活も制限が多い中でのスタートでした。しかし、そんな環境でも皆さんは前向きに努力を続け、勉強や部活動に励み、たくさんの成果を残してくれました」と感謝の思いを伝えました。

来賓として登壇したPTAの青木会長は、「人生はまるでゲームのようなものです。進んでいくと新たな敵が現れ、仲間と協力してその敵と戦い、乗り越えながらレベルアップしていく。時には失敗もあるでしょう。しかし、どん底に落ちたとしても、それは"負け"ではありません。必ず時が解決してくれます。困難な時も自分を信じて力強く羽ばたいてください。」と、卒業生へ力強くユーモアあふれるエールを送られました。

卒業生代表の小島さんは、3年間を振り返り、「何も分からなかった1年生、少しずつ自覚が芽生えた2年生、そして自分の進路に向き合うようになり、3年生では"最後の"という言葉がつく瞬間が増えていきました。最後の学校祭、最後の球技大会——どれも一生の思い出です。コロナ禍で制限の多い高校生活でしたが、どんな困難も前向きな発想に変え、乗り越えてきました。この経験を力に変え、自分の足で未来を歩んでいきます！」と答辞をのべました。

卒業証書授与式の後は、各クラスにもどり、最後のホームルーム。担任から卒業証書が一人ずつに配られ、再び3年間を思い返すひと時を過ごしました。皆が胸いっぱい思い出と感謝とともに慣れ親しんだ校舎をあとにしました。

3月3日 卒業生への感謝とエール

鳥取県立岩美高等学校女子バレーボール部卒業生を送る会

卒業証書授与式の後、岩美高等学校女子バレー部の卒業生を祝う「鳥取県立岩美高等学校女子バレーボール部卒業生を送る会・記念品贈呈式」が虹嶺会館で開催されました。この会は、日頃からチームを支えてくださる後援会の皆さまによる、感謝と激励の場です。岩美町の長戸町長からも「3年連続インターハイ出場は町の誇り。卒業しても、また岩美町を訪れてほしい。」と温かい言葉が届けられました。最後には、温かな祝福の中で記念写真を撮影し、3年生を見送りました。後援会の皆さまの深い愛情と応援が詰まった、感動的なひとときでした。



鳥取県立
岩美高等学校

瓦版

TSUREDURE

岩美高校の日常

～令和7年2月・3月～

第11号

岩美高校
ウェブサイト

学校ウェブサイトへアクセス
すると更に詳しい情報をご覧
いただけます。



2月26日

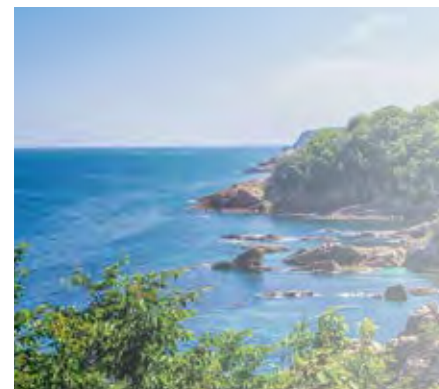
岩美町の魅力を全国へ！高校生が描く観光PRポスター

今年で4回目を迎えた「岩美町観光PRポスター」プロジェクト。岩美高校の生徒たちが、高校生ならではの視点で岩美町の魅力を発掘し、ポスターをデザインするこの取り組み。今年も3名の生徒が、個性あふれるポスターを制作しました。新作ポスターのお披露目会が、本日、岩美町役場で開催されました。

お披露目会には、長戸岩美町長、岩美町観光協会の田中副会長が出席し、生徒たちは少し緊張した面持ちで迎えられました。今回ポスターを制作したのは、1年生の安達さん、2年生の川部さん、佐藤さんの3名。それぞれが作品に込めた想いを語りました。生徒たちの力作を前に、長戸岩美町長、田中副会長が、「学業で忙しい中、これだけ素晴らしい作品を作ってくれて本当にありがとうございます。」と、感謝の言葉を述べられました。

2年連続でポスターを作成した佐藤さんは、「岩美町の美しい夜空と海を描きました。特にこだわったのは星空の表現。鳥取県は星がきれいに見える場所なので、夜の海の実しさも伝えたかったです。」"こんばんは。"というフレーズにも注目してほしいです。」と、自身の作品に込めた思いを力強く語りました。

岩美町
観光PR
ポスター
できました



初挑戦の安達さんは、「岩美の透き通る海と、そこで楽しめるマリンスポーツを前面に出してデザインしました。岩美の海が大好きなので、このポスターを見た人が岩美を訪れるきっかけになればうれしいです。」と、照れながらも熱い想いを語りました。

生徒たちがデザインしたポスターは、県内はもちろん、関西の駅などにも掲示予定。岩美町の美しい風景や文化を、全国へと発信します。高校生たちの思いが込められたポスターが、多くの観光客の心を動かし、新たな旅のきっかけとなることでしょう。岩美町の魅力を全国へ！生徒たちの作品に、ぜひご注目ください。

2月25日 「未来を創る一票」- 高校生が学んだ選挙のリアル



本日、公共(主権者教育)授業の一環として、岩美町役場 総務課の植田さんを講師に迎え、「選挙」について詳しく学ぶ特別授業が開催されました。

選挙権は18歳から--その意味とは？

授業では、まず選挙の基本を押さえるクイズからスタート。投票用紙の素材や、インターネット投票の可否など、生徒たちの興味を引きつける話題が投げかけられました。さらに、選挙管理委員会の役割や政治と生活のつながり、さまざまな選挙の種類についても詳しく解説があり、「なぜ18歳から選挙権が引き上げになったのか」について背景や経緯を説明いただきました。

続いて、実際の投票の流れを学習。投票所入場券が郵送される仕組みから、投票先を決めるための情報収集、投票所での手続き、記入時の注意点まで教えていただきました。

いざ、模擬投票！

説明を聞いた後、受付役3名を任命し、生徒全員が、本番さながらの模擬投票を行いました。事前に読んでいた選挙公報を参考にして、投票先を決めます。幼いころ保護者に連れられて投票場に行ったことがある生徒も多く、模擬投票は厳粛に、そして大変スムーズに進みました。開票も行い、投票の流れがよく理解できたようでした。



「選ぶ」ことの大切さ--

一人一人の票が未来を変える。今回の授業を通じて、生徒たちは自分たちが持つ選挙権の重みを実感したことでしょう。まもなく迎える18歳、そしてその先の未来に向けて、今日の学びが生きてくることでしょう。

3月13日 2年生：未来設計の第一歩！「自分の将来とお金の話」

本日、公共授業の一環で、山陰合同銀行 アセットコンサルティング部より曾根さんを講師にお招きして「自分の将来とお金の話」をテーマに講演会を行いました。

曾根さんは、10年後、20年後の未来を見据えたライフプランと資産設計について、生徒たちに具体的な例を交えて解説してくださいました。

・結婚して子どもを育てていくにはどれくらいお金が必要になるか？
実際に電卓を使いながら計算し、理想の未来を実現するために必要な金額を算出。生徒たちは、お金の重要性をリアルに実感しながら真剣に耳を傾けていました。

その他、

・どれくらいの貯蓄をめざすとよいか
・どのように将来に向けてお金を準備するか？～貯める・殖やす 資産形成～ など。生徒たちは、曾根さんのお話に大変興味を示し、真剣に現実的なお金の話を聞いていました。



3月12日

1年生を対象に「進路別説明会」開催



本日、1年生を対象に「進路別説明会」を開催しました。上級学校への進学や就職を目指す生徒たちが、自身の将来に向けた具体的なアドバイスを受け、進路選択への意識を高める機会となりました。

生徒たちは希望する進路ごとに分かれ、進学希望者は大学・短大・専門学校から招いた講師の方々から、学校生活や学習内容について詳しいお話を直接聞くことができました。未来の学生生活を思い描きながら、真剣な表情でメモを取る姿が印象的でした。



一方、就職希望者向けの「就職試験対策講座」では、就職活動のスケジュールや試験対策について具体的な指導を受けました。各分野の専門家からの助言を通じて、生徒たちは自らの進路に対する意識をより明確にし、一歩踏み出す自信を深めた様子でした。

自分の未来を切り拓くための大切な時間。生徒たちは、今日得た学びをもとに、それぞれの夢へと歩みを進めていきます！



3月14日 大学生サークルによるピアエデュケーション講演

本日、鳥取大学医学部保健学科の大島麻美助教と、鳥取大学医学部保健学科ピアサークルのメンバー17名をお招きし、2年生を対象に「ピアエデュケーション」学習が行われました。

ピアエデュケーション(仲間教育)とは、同世代の仲間(ピア)が相談役となり、思春期の若者が抱える性の悩みについて共に考え、意見を交わしながら解決を目指す取り組みです。今回のテーマは「よりよい交際」。

講演では、ピアサークルのメンバーが主体となり、生徒と近い目線で「大切な人との付き合い方」をグループで話し合ったほか、愛について考える「アンドロギュノス」の物語を紹介。また、「デートDV」「望まない妊娠」「性感染症」「性的同意」といった重要なテーマについても、劇を交えながら分かりやすく解説してくださいました。

さらに、各班には1名ずつピアサークルのメンバーが加わり、生徒たちの意見を引き出しながら、専門的な知識をもとにアドバイス。年齢の近い大学生だからこそ、リラックスした雰囲気の中で本音を語り合い、性に関する知識や価値観を深める貴重な機会となりました。

鳥取大学医学部保健学科ピアサークルの皆さん、ありがとうございました！



3月17日 春の訪れとともに-- 岩美高等学校合格者発表

本日正午、岩美高等学校の合格者発表が行われました。近年はWEB発表が主流となる中、現地での発表を心待ちに、何名かの生徒や保護者の皆さまが足を運ばれました。合格掲示を見つめる緊張の表情、歓喜の笑顔が広がる光景は、この瞬間ならではの。曇り空の下、まだ肌寒さが残る午後でしたが、一足早い春の温もりを感じる発表となりました。新たな門出を迎えた皆さん、おめでとうございます！



3月21日 地域とともに歩む探究の一步 2年生「総合的な探究の時間」中間発表会

全15班がそれぞれのテーマで発表を行い、質疑応答から、今後の探究をさらに深化させるヒントを得たようです。3年生の7月に予定されている最終発表に向けて、各班はさらにブラッシュアップを重ね、地域とともに学びを進めていきます。



本日、2年生による「総合的な探究の時間」の中間発表会が行われました。今年度の探究活動では、「田後地区」「浦富地区」「東浜地区」「岩井地区」という4つのエリアに分かれ、地域ごとの課題をテーマに深く掘り下げてきました。これまでの大きな違いは、各地区に「地域サポーター」をお招きし、直接ご指導・ご助言をいただきながら、より地域に密着した学びを実践している点です。生徒たちは、フィールドワークや対話を通じて、地域の魅力や課題を探り、解決策を模索してきました。まだまだ、途中ではありますが、中間発表として現在の取り組みを、1年生と地域の方々にも共有しました。



今年の発表会は、例年とは異なり、体育館にブースを設けたローテーション形式で実施。各班は、決められた時間に自分たちのブースでプレゼンを行い、空いた時間には他の班の発表を聞くスタイルを採用しました。このフランクな雰囲気の中で、プレゼンターと聴衆の距離が近づき、活発な質疑応答が飛び交いました。特に地域の方々からの質問は生徒たちにとって貴重な経験となり、懸命に答えようとする姿がとても印象的でした。



田後地区
TAJIRI 倶楽部
「田後を活性化させるために」



浦富地区
琥珀糖
「琥珀糖で岩美を表現しよう！」



浦富地区
レジンアート
「海岸の美しさを表現しよう」



浦富地区
beach art
「ビーチアートで浦富の魅力を」



東浜地区
blues
「海の透明度について」



東浜地区
Salt46
「塩作り 塩の歴史 塩はなぜできたか」



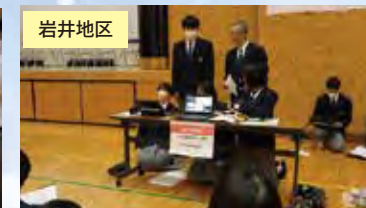
東浜地区
東浜応援隊
「東浜の特徴を生かした取り組み」



東浜地区
東浜廃材活用隊
「ごみ問題とその対策と活用」



東浜地区
まちおこしロケット団
「地域魅力発見大作戦」



岩井地区
岩井温泉を盛り上げ隊
「岩井の魅力発信」



岩井地区
ネギシックス
「ネギでネギらう」



岩井地区
岩美高校広報課
「岩井を語り継ぐ」



岩井地区
客室シンフォニー
「善意の力、ナメたらいけんでえ」



岩井地区
温泉カフェ
「温泉カフェ営業中」



岩井地区
温泉探究シュノーケル
「岩井のすくすく」



2月22日 熱く響け、ジャズの魂！ -岩美高校 Blue Martin Jazz Orchestra 第38回定期演奏会-

本日、第38回 鳥取県立岩美高等学校 吹奏楽部 Blue Martin Jazz Orchestra 定期演奏会が、岩美町立中央公民館のいわみんホールで開かれました。今年の演奏会は、大寒波にみまわれ、路面に積雪が多い日の開催となりましたが、町内外より100名ちかくの方々にお越しいただきました。ご来場の皆様、本当にありがとうございました。



♪第一部:ビッグバンドの真髄、炸裂!

幕開けを飾ったのは、スウィングジャズの名曲「Sing Sing Sing」。軽快なビートに乗せて会場の手拍子が響き渡り、演奏会は一気に盛り上がりました。第1部の最後の曲は、岩美高校の看板曲ともいえる「名探偵コナンメインテーマ」。3年生の植田さんのサクソソロパートが、さらにパワーアップし、迫力のある演奏が会場に響き渡りました。第一部で演奏された曲は、Sing Sing Sing, It Don't Mean a Thing, Moonlight Serenade, In The Mood, 名探偵コナンメインテーマ。



♪第二部:少人数ステージの妙技

Alto Saxophone独奏では、「花は咲く」が演奏され、美しい独奏に、会場の方々は一しりと耳を傾けていました。

♪第三部:サクソフォンアンサンブル&ビッグバンドの圧巻フィナーレ

第3部の演奏は、はじめにサクソフォンアンサンブル。サクソフォン演奏部員が、サクソフォンの儂いメロディーの曲を美しい音色で力いっぱい演奏しました。演奏の後には、サクソフォン部員の苦労話なども聞け、厳しく自らスキルアップした様子がうかがえました。サクソフォンアンサンブルで演奏された曲は、さくらのうた~FIVE、生命の奇跡。

岩美高校 Blue Martin Jazz Orchestra の名は、今や鳥取県のみならず全国へと響き渡っています。毎年成長し続ける彼らの演奏は、聴く人の心に新たな感動を刻み続けることでしょう。



2月28日 未来へ羽ばたく3年生へ——誇り高き功績を称えて

本日、3月3日の卒業式を目前に控えた3年生の輝かしい功績を称える表彰式が行われました。8部門の表彰があり、代表者11名がステージに登壇。辻中校長より表彰状を受け取り、その努力と成果を称えられました。



式辞では、辻中校長が「ジェントルマンシップ」について語りました。「スポーツマンシップとは、ジェントルマンシップである。これらには、① ルールを守る ② 全力を尽くす ③ 相手に敬意を示すという3つの大切な精神があります。これからの人生においても、この精神を胸に刻み、さらなる成長を遂げてほしい。」

卒業を間近に控えた3年生の皆さん。誇りを胸に、新たなステージへと力強く歩みを進めてください！

3月5日

岩美高校とリトルロンドン高校(ジャマイカ)との姉妹校提携締結について

鳥取県とウェストモアランド県との姉妹都市提携での交流が進む中、岩美高等学校とウェストモアランド県Little London High Schoolが姉妹校提携を締結することになり、令和7年2月19日(木)に両校校長の間で姉妹校提携締結が行われました。



本校の辻中孝彦校長が令和7年2月19日(木)ジャマイカ、ウェストモアランド県にあるLittle London High School(リトルロンドン高校)を訪れ、Gangield Tomer校長先生と会談を行い岩美高等学校(鳥取県)とLittle London High School(ウェストモアランド県)との姉妹校提携を締結し、文化、教育、芸術、スポーツなどの様々な分野において教員、生徒同士の文化交流活動を推進し、相互理解を深め友好関係を発展させていくことで合意しました。

岩美高校は2007年からジャマイカとの交流を進めてきており、本校吹奏楽部が2022年ジャマイカ独立60周年記念式典での記念演奏、2023年日本・ジャマイカ友好提携60周年記念式典での記念演奏を行い、また、2022年からLittle London High School(リトルロンドン高校)英語オンライン交流を行い、交流を深めてきました。

今回の姉妹校提携締結は、ジャマイカ国内の高校が海外の高校と姉妹校提携を結ぶのは今回が初めてということで、ジャマイカ国内でも全国ニュースとして紹介されました。

今後、岩美高校とLittle London High School(リトルロンドン高校)との交流だけでなく、鳥取県とウェストモアランド県との交流ならびにJ-J partnership(Jamaica-Japan partnership:ジャマイカと日本のパートナーシップ)がますます発展していくことが期待されます。



2月27日 誇り高く響く、岩美高校校歌練習

本日、1・2年生が校歌練習を行いました。校歌は、世代を超えて在校生と卒業生をつなぐ不変の絆。先輩たちがそうだったように、私たちもこの歌に誇りを託し、受け継いでいきたい。最初は控えめだった声も、歌詞の意味を理解し練習を重ねるうちに次第に大きくなり、最後には背筋を伸ばし、堂々と歌う姿が見られました。

3月3日の卒業式では、心をこめた最高の校歌を響かせ、3年生を送り出しましょう！

3月24日 3学期 表彰式・終業式・離任式・退任式

本日、表彰式、終業式、離任・退任式が行なわれました。表彰式では、学業成績優秀賞と皆勤賞が各学年から表彰され、代表者が表彰状を受け取りました。



学業成績優秀賞・皆勤賞・鳥取県高等学校体育連盟長賞スポーツ賞の表彰

引き続き、第3学期、終業式が行なわれました。式辞に立った辻中校長は、「人から無理だと言われても、自分を信じて挑戦しよう。」と生徒たちに向けて力強いメッセージを送りました。「偉大な発明家エジソンやライト兄弟も人から、無理だと言われても諦めず挑戦し続けたからこそ、彼らは歴史に残る発明をしました。」と語り、「どんな困難も自分の可能性を信じて乗り越えよう」と生徒たちを鼓舞しました。



続く退任式では、今年度をもって退任される三好教頭、林教諭、加藤教諭が壇上に立ちました。辻中校長がそれぞれとの思い出を振り返り、長年の貢献に感謝の意を表しました。

三好教頭は、35年間の教員生活を振り返りながら、「支えになったのは家族や生徒の笑顔、そして仲間である先生方のおかげだった」と述べました。「人生には楽しいこともあれば、辛いことや苦しいこともある。しかし、やまない雨はない。だからこそ、皆さんも苦しさにも負けず、前を向いて頑張ってください」と、これから未来へ向かう生徒たちにエールを送りました。

林教諭は、現役野球選手の座右の銘である「一日一生」を紹介し、「私はこれを『一日一笑』とアレンジしました。毎日一回でも笑顔を意識することで、その日が変わり、人生が豊かになる」と、笑顔の大切さを強調し、笑うことで免疫が上がり、健康になり、周囲の人も幸せにできる。自分の心も豊かになる。」と語り、生徒たちに、「たくさん笑いのある人生を送ってください」とメッセージを残しました。

加藤教諭は、「イワッツが誕生してから、このジャンパーをずっと着て、行事の様子を記録として写真に収めてきました。」と語り、自身のトレードマークとなったジャンパーの思い出を振り返りました。「高校生活の一瞬一瞬は、二度と戻らない。だからこそ、一つひとつの瞬間を大切に過ごしてほしい」と、生徒たちに高校生活の意義を改めて伝えました。そして、「できるときにできることをできるだけやる。これは私の信条です。皆さんも、この言葉を胸に、長い人生を歩んでいってください。」と力強く話しました。

離任式では、4名の教員が壇上に上がり、代表して挨拶をした濱橋教諭は、東浜で見た巨大な看板のエピソードを紹介しました。「その看板は、岩美高校の生徒のアイデアが採用されて作られたもの。大人にはない若者ならではの発想が光っています。岩美町は、生徒たちのアイデアを尊重し、夢を応援してくれる素晴らしい場所。この環境の中で、皆さんも自分の可能性を信じ、大きく羽ばたいてください。私たちも新しい勤務地で、皆さんの成長をずっと見守っています。」と締めくくりました。



今年度は、もう一つの大きな別れがありました。4年間にわたり岩美高校を率いてきた辻中校長の退任です。岡森教頭は、本校岩美高校の卒業生でもある辻中校長の、東京オリンピックでのバドミントンの審判としてのキャリアや、有名タレントなどにも教育を施された功績など、高校時代からの夢の実現のお話と偉大なる教育活動を紹介しました。

生徒たちは、退任・離任の知らせに驚きながらも、それぞれの先生との思い出を胸に、お別れの時間をかみしめていました。しかし、それは同時に新たな未来へのスタートでもあります。先生方から送られた言葉を胸に、生徒たちはこれからの高校生活、そしてその先の未来へと歩みを進めていくことでしょう。